

特集

保育の「根本考察」

にチャレンジ！14

今から約1世紀前、倉橋惣三が本誌にこう書いた。「根本考察が足りない。根本考察が足りないから、問題がいつでも枝葉の處で動いて居る。(中略)——我國の幼稚園教育界は、こんな風にして一年々々過ぎて居るのではあるまいか。」(「斯くてまた暮れゆく」大正5年12月)……倉橋がもし今生きていたら、現代の幼児教育界をどう見るだろう。倉橋先生、私たち根本考察できていますか？

「暮らし」の視点で 保育を見直す —「コロナ」と保育

今年度は「暮らし」を彩るいろいろなテーマで語りあうことで保育を見直していきます。冬号のテーマは「コロナ」と保育です。新型コロナウイルスが世界中に広がる中で、子どもたちの暮らしをどうつくっていくか、変わらざるを得ないものと変えてはいけないものの中で保育が営まれています。「コロナ」と保育について考えてみたいと思います。

CONTENTS

座談会 2020

今、大切にしたい私たちの「暮らし」

アーカイブズ

「一月の衛生」

— 『幼児の教育』第42巻第1号(1942年)から —

座談会 2020

今、大切にしたい 私たちの「暮らし」

ベルガー有希子
浜口順子
松島のり子
上坂元絵里
菊地知子
宮里暁美(進行)

宮里 新型コロナウィルスの感染拡大によって世界中が混乱の渦に巻き込まれています。医療関係の方々の努力でワクチン等の開発が進められていますが、収束の見通しは立っていないように思います。ウィルス感染防止のためにさまざまな変化が求められ、変わらざるを得ないものが多くあるように思います。と同時に、どのような状態であつても大切に

したい「暮らしの在り方」があるようにも思います。そこで、今回の座談会のテーマを「今、大切にしたい私たちの『暮らし』」としました。感染防止のため、リモートで開催します。リモートの良さを活かして海外からホットな情報を寄せたいいただきました。と企画しました。ご参加くださるのはドイツで幼稚園教諭をされているベルガーさんです。

ミュンヘンで保育者として生きて

ベルガー ドイツのミュンヘンに住んで32年



ベルガー有希子 (Haus für Kinder 幼稚園教諭)
松島のり子 (お茶の水女子大学)
菊地知子 (お茶の水女子大学附属いずみナーサリー主任保育士)

浜口順子 (お茶の水女子大学)
上坂元絵里 (お茶の水女子大学附属幼稚園副園長)
宮里暁美 (文京区立お茶の水女子大学こども園園長)

目になります。子育てをする中でファミリーセンターとかかわり、子どもが3歳を過ぎるときにスタッフとしてかかわらせていただきたいのが、ドイツにおける保育の始まりでした。その後、ミュンヘン市の公立幼稚園に勤務し、17年になります。

私の勤務園は Haus für Kinder (「子どもの家」)です。3〜11歳を預かっている施設です。ドイツは小学校が1年生から4年生まで^注なので、園内に小学生の放課後を見る学童施設があります。職員の数、幼稚園が10人、学童が8人、実習生4人、キッチンが3人。職員も子どもたちも多国籍で、幼稚園は在園児が44人いますが、二十数か国の出身です。私の地域が特別なのではなく、ミュンヘン市としてそういう感じ です。

本園の特徴は、①インクルージョン・インテグレーション。目の前にいるその子をそのまま受け入れましょうという保育。②子どもの

身体的発達(運動・健康)を大事にする。③自然と触れあい自然の中で遊ぶ経験を積む、の三つがあります。

宮里 ミュンヘンの幼児教育施設における公立と私立の割合はどんなですか？

ベルガー 園の数としては私立園のほうが多いのですが、私立は10人など少人数の園が多いため、幼児数は同程度です。私立は教会立をはじめ福祉団体施設、シユタイナー園、森の幼稚園などがあります。

保育内容の紹介① 異文化理解教育の様子

ベルガー はじめに、異文化理解教育についてお話ししたいと思います。いろんな国籍の子どもがいるということで、それぞれ自分の国に誇りをもって育つことができるようにしています。その子がグラウンドにもつ文化を大切に上げてあげるといふ意味があるのです。家庭ではなるべくドイツ語を使わないで、と



指導しています。ドイツ語は幼稚園でサポートするので、家庭ではそれぞれの文化を大事にしてね、という教育なんです。

左の写真はその様子です。この日はトルコ人のお母さんに来てもらってトルコの話をしてもらいました。お母さんが話している間、その子は自信満々な表情です。友達との自国の

話につながったり、その子の居場所ができて交流ができたりするきっかけになるように、時々保護者と呼ばれるその国の紹介をもらうという活動をしています。

保育内容の紹介② 人形劇を見せている様子

ベルギー 左下の写真は人形劇を見せているところです。日本でいう紙芝居みたいな感じで、紙芝居の代わりによく人形劇をします。最近ではドイツでも紙芝居が広がってきました。面白いのが紙芝居の入れ物で、日本のものと違ってドイツの紙芝居の入れ物は、後ろがふさがっているんです。1枚目の表紙を取るとその表紙に書いて話があるので、それを読ん



て徐々に緩和され7、8割が戻り、7月1日から全面的に戻っています。ただし家庭の判断で家に留まる子どももいます。

そういう経過の中で、先ほどのエチケットのポスターが貼られました。できなくなった



ことがたくさんあって。お母さんたちはお迎えお見送りのときにエントランスまでしか入れなくなりました。

浜口 玄関やお部屋に入れなくなったのですか？ 外で待っているということ？

ベルガー 1メートルまでは入ってもよいんです。そこに二つ大きい机が置いてあって、ひもが掛けてあって、そこからは入ってはいけないということになりました（上の写真）。マスクは着用必須です。

今後のことでは、慣らし保育が大変になると思っています。ドイツは9月が慣らし保育。今までは、慣らし保育のときに、お母さんにも室内に入ってもらうことが2、3日あったのですが、それがまったくできないので泣く子どもが多くなるかなと。

宮里 日本では4月入園が6月にずれ込み、3密を避けるため分散登園が始まりました。これがなかなか良かったです。今までは一度

に全員が来るようにしていたのですが、こちらのほうがいいよね、と。コロナでやむを得ずやったことの中で良かったこともあるよね、という声が上がっています。

変わったこと、マイナス面とプラス面

上坂元 コロナのことが起きて変わったことをもう少し聞かせてください。

ベルガー 歌を歌っちゃいけないんです。歌は外で歌う。集まりのときの歌が禁止されました。クッキング保育も禁止。お泊まり保育も5人部屋の2段ベッドで寝るのでそれもダメという事です。できなくなったことが多いです。

プラス面としては小さいクラス運営になったこと。今までは22人で1クラスだったんですけど、3クラスに分けたので、1クラス14~15人のクラスになりました。登園しない子もいるのでこじんまり。子どもにも保育者にも好評で、このぐらいの人数だったら良いよ

ねと。15人を大人2人で見るので人数的にも余裕があるし、子どもも落ち着いて活動ができる。一部屋に留まるけれど、充実した活動ができるのが良いよねという発見でしたね。そこが変わりました。

宮里 食事のときに配慮されていることはありますか？

ベルガー ビストロという食堂に行つて自分の好きなだけ自分のお皿に盛り付けて食べる方法が禁止になりました。部屋でそれぞれ食べて、保育者が「いっぱいいる？ 少なくともよい？」と量聞いて、保育者がお皿に盛り付けるということを6月中はやっていました。だんだん大丈夫かなという雰囲気が出てきて、今は元の状態に戻っています。それぞれの座った机にご飯やヌードルや主菜が大皿で置かれて、子どもたちが順番に自分でよそって食べるということになってきました。

宮里 食事の仕方については、なかなか課題

がありますよね。マスクはどうですか？

ベルガー マスクはしなくてよいです、幼稚園では。表情が見えるほうが良いという理由でミュンヘン市ではマスクは奨励しないというところで、子どもも保育者もマスクをしていません。幼稚園を一步出るとマスクをしないとイケないのですが、園内は異空間のようで、今までのように普通の状態でよいのかなという感じになっています。

宮里 ベルガーさんの人柄でということではなく、ドイツはそんな感じということ？

ベルガー そうです。ドイツはそんな感じですよ。

宮里 日本では消毒を徹底して行っています。消毒はされますか？

ベルガー 消毒は一日2回、10時頃と帰りの17時に、担当者を決めて、必ずするようにしています。ただ、おもちゃまではしなくていいです。机とドアノブを中心に、ですね。ミュンヘン市の

スタンダードに従って行っています。

菊地 日本は手洗いを重視していて、ナーサリーでは、入室時に必ず保護者にも子どもにも手を洗ってもらっています。ドイツでは、手洗いは必須ですか？

ベルガー 初めて手洗いを教えました。ハッピーバースデーの歌を2回歌いながら指の間と爪の間を洗う。3月初めに子どもたちに教えて、今も子どもたちはハッピーバースデーを歌いながら手を洗っています。手を洗うのは、トイレに行った後。それ以外はそんなに厳しい目で見ているわけではなく、「(手を洗いに)行こうね」という呼びかけをして、行く子ども行かない子もいるという毎日です。ごはんとおやつの前と、トイレの後には、石けんで手を洗うようにしています。

ナーサリー、幼稚園、こども園での取り組み

菊地 ベルガーさんたちの取り組みと重なる

部分と少し違う部分があるのかなと思って聞いていました。私たちはドアノブや机などだけでなく、おもちゃも毎日消毒しています。いざ保育になれば、保育は基本的に密接が基本ですし、以前と同じように歌も歌ってるしダンスもしているし、クッキングもしています。ただ、それらは、ミュンヘンと異なり、保育者が原則マスクをするからできる、という面もあると思います。

ドイツでは0、1、2歳児の保育は、3歳以上と異なり歴史的にあまり古くはないですよね？

ベルギー 育児給付金の制度があるので、1歳前に来る子は少ないですね。

菊地 ベルギーさんの園にはいろいろな国の方がいらつしゃるということをお聞きしました。本来は私たちのナーサリーも留学生のお子さんの受け入れが大きな使命としてあるもので、保護者に留学生が多かった時期もありま

したが、今はいません。本人は学生で日本にいるけれど、コロナのため、ナーサリーに入る予定だった子どもを日本に呼び寄せられないでいる方などもいて、現在は日本人オンリーの園になっています。役割が果たせていない感じがあります。多様であることが、大変だけどうらやましくもあるなと思いました。

上坂元 幼稚園では、小学校以上に準じてということが多かったので、休むことに関して戸惑いが大きかったです。3月が突然お休みになって、卒園式も該当の5歳児だけ来て、縮小して行い、区切りだけがついたのかなという感じでした。4月、5月はお休み。その間に家庭と園がどんなふうにつながるかをいろいろ考えました。電話での一言面談をしたり、郵送で手紙やちよつとした教材を送ってやりとりしたり、つながる部分を大事にしました。情報を動画等で上げること始まり、さまざまなことが怒涛のように流れ込んできた3か

月だったと思います。

宮里 園が再開してからは？

上坂元 保育者はマスクをしているけれど、それ以外、園の中の生活は大きく変えないで過ごしてきました。半数ずつ一日置きに来るという形で1学期はほぼ分散登園でいきました。一日だけ5歳児が全員来てお弁当を食べたのですが、全員で来る生活が始まると落ち着かなくなりました。人数が減って穏やかに過ごせた部分もありつつ、この後、30人1クラスの規模に戻っていくところが、どうつながっていくか、夏休み明けの課題になりそうかなと。

全般的に、やむを得ず変えることに対して、幼稚園の教員は柔軟性があるから、「やるしかないよね」と捉えることで新しい良さが見えてきたり。前向きにやる中で、新たな発見をしながらやってきました。マイナス面はこれから見えてくるのかなと思っているとこです。

宮里 こども園はずっと園を開いてきまし

たが、少人数の保育を重ねる中でいろいろ考え、気づいたことがあります。園にいる人もいれば家庭にいる人もいる。園を開け続けている園もあれば閉じる園もある。外側から見える状況は大きく違うのだけれど、向きあっている方向は同じだと気づきました。それぞれの在り方でみんな最善を尽くしているのだと感じながら、目の前の子どもたちと過ごしていました。体調管理、消毒、3密を避ける工夫を重ね、あとは普段通りに過ごしました。5月にこいのぼりを飾ったら、心が晴れ晴れとしたことを思い出します。当たり前の日常は変わらずここにあり、と実感できると心が安定すると思いました。

これからの暮らしへの思い

宮里 ウイズコロナという言葉もありますが、これからの暮らしについて考えを交流できた

らと思います。ベルガーさん、ミュンヘンの小学校はどのような感じですか？

ベルガー 小学校は分散登校です。1週間はクラスの中のAグループが行って、次の週はBグループが行く。この隔週の分散登校が始まったのは6月半ばから。それまではオンライン授業でした。7月いっぱいまで夏休みなのですが、実質2週間しか行っていないのです。

宮里 日本では夏休みが短くなるケースも多いです。そういうふうにはなりませんか？

ベルガー まったくないです。夏休みは夏休みで予定しています。

宮里 今は日常に戻ったという感じですか？

ベルガー まだみんな警戒しています。バイエルン州全体で毎日100人ぐらいの感染者がいるので。その上今から夏休みが始まるので、まだわからないですよ。人の移動が増えると思いますから。この時期だと、ドイツ人はバカンスでオーストリアやスペインや南の方

に行くのですが、私の周りにはみんな国境を越えたくないなので、今年はドイツ国内のホテルが満杯です。9月になっても元には戻らず、オープン保育はできないだろうという考えで職員はいるので、クラス単位の保育の中で、子どもの参画を保障する可能性を考えていかなないといけないのかなと思っています。

保育の原点に戻るきっかけに

浜口 幸か不幸か結果的に少人数保育になって保育の原点を一時見直すきっかけにもなっているのは、ドイツも日本も共通なのですね。保育中のマスクを外した訳など、もう少し詳しくお聞きしたいのですが。

ベルガー 私たち自身もしたくないし、ミュンヘン市からも「マスクはしなくてよい」という通達がありました。学校でも、授業中はしなくてもよいけれど、教室を一步外に出るとしないといけないというバイエルン州の決まり

があるんです。それに従っています。そのほうが表情が見えるし、良いと思う。その代わり、歌は歌わない。飛沫を飛ばしてはいけないので。

浜口 その辺り、こども園と幼稚園とナーサリーはどうなのですか？

宮里 こども園では、送り迎いで大人が出入りするときは保育者はマスクをしていて、保育中は暑さもあるので外す場合があることを保護者にお知らせしています。

浜口 赤ちゃんは、マスクはどうしている？

宮里 赤ちゃんはマスクはしません。2歳以下はマスクをしないようにと連絡が来ています。

菊地 ナーサリーは、再開するときに、0、1、

2歳は窒息や熱中症のほう怖いので、子どもにはマスクをさせないでと親に言いました。

保育者は基本的にマスクをしますが、熱中症につながりかねない呼吸の苦しさのときは外

すことがありますということも保護者に知らせています。保護者には着用をお願いしています。

上坂元 幼稚園では、園を開始するときに、熱中症の報道が始まったのです。小さい子のマスクは危ないよと言われ始めた時期に開始だったので、身体的な負担と、扱いの衛生管理が十分にできないという2点で、園内ではマスクをつけることは強制していません。交通機関を使って通園する人がいるので、電車やバスの中は子どももする人が多いのかなということで、マスクケースを一人一つずつ買って用意して、園内では二つ折りに入れておくようにしています。保育者はマスクをしているのですが、「暑くなってきたから、先生たちも自分の判断で外そうね」と話しています。

変わるって・変わってはいけないって

宮里 まだまだ先が見えない状況ですが、今

だからこそ思うことを一言ずつお願いします。
浜口 小学校以上だと、オンラインの教育の可能性は部分的にあると思います。幼児教育においても、親御さんとながるという意味はあるけれど、幼児にとってオンライン教育の可能性はとても限られていて、マイナス面への配慮が必要でしょう。

「子どもには密が必要」という仙田満先生の話（本誌P 36～39の記事参照）のように、今、子どもの成長にとって基盤となるとところが危機に陥っていることを感じます。保育の渦中にいる人たちは危機感を大きくもっていて、先の見えなさもあり、先生たちのストレスはどうなっているのかということが心配です。

松島 園としてどうするかという判断をするときに、いろいろな情報を得ながら、先生たちが判断するには、難しさが伴うのだろうなと感じました。マスクひとつをとっても、感染症予防で国から配られるぐらいなので、毎日

してはいるけれど、保育をしていく中では、子どもたちにとって表情が見えるようにしたいという思いがあり、暑さの中では熱中症の心配もあります。感染症の予防も必要だけど、熱中症も心配、そして子どもとのかかわりも大切。何か大切にしたいものがあるからこそ判断が難しくなることがあるのではと思いました。〃してはいけない〃控えましよう〃というとき、誰が何によってそれを判断するのは簡単なことではないと思います。いつ何がどのような形で起こるかわからないと思うと、これからに向けて、今だからこそ振り返りつつ考えていくことも必要なのかなと考えます。

ベルガー コロナで大変ですが、このようなオンライン座談会の機会を頂けたのはコロナのおかげなので、良いこともあるのかなと思います。このような時期だからこそポジティブに考えることも大切ですね。

もう一つ良かったなと思うことに気づきました。クラスを三つに分けるときに、「自分と気の合う保育者」「自分と気の合う子どもたち」を重視して作ったんです。もちろん子ども同士の関係については一番尊重しましたが、そうすることでストレスが結構少なくなりました。叱る割合が少なくなつて穏やかに温かいまなざしで保育ができるようになったなと思います。子ども同士のいさかきも減りました。ストレスが減少して、そこが良かったかなと思います。

宮里 ストレスが減少したのですね。

ベルガー 職員にとつても子どもたちも雰囲気が良いとストレスが少なくなります。

菊地 危機感、心配は変わらずありますが、6月に子どもたちや保護者に実際に会えたことは何よりもうれしいことでした。これからも、マスクの着用や消毒など、いろいろ気をつけながらではあるけれど、ゆるゆるとのんきで

楽しい毎日を重ねることが子どももの力になっていくという実感があります。のんきに笑いあう、悔しくて泣きあうといったような、本当に当たり前の生活をいかに重ねていけるか。この局面においてもとても大事なことでないかと思っています。

上坂元 鬱々としてしまうような生活の中で、在独のベルガーさんとも距離を超えて話が出てきたのがたかかったです。今、対話の大切さが言われますが、保護者ともちよつとしたことと話をすることで、親から逆に励まされることも多くあつて、この出来事も悪いことばかりではないなと思います。七夕の笹飾り作りでものごく細かく網を切ろうとする年長児の真剣な目を見ると、そういう場がしばらくなかったのだらうなと思つたりしています。大切なことを、ちよつと細くなつたり太くなつたりするのかなとは思うけれど、脈々と続けていけるように。



▲中央に花台を置き広くなった机で食事をする。
(こども園3歳)

どうしようかと考えました。机と机の間を開けてみても落ち着かなくなったり大声で話すようになったりして、逆効果になってしまったのです。そこで

教員のストレスについては、すべて0から考えることばかりになっていて、先生たちには負担が蓄積しているのだろうと思いますが、夏休みを挟んで前向きにつながっていかれればと思います。

宮里 今こそ知恵やユーモアを発揮するときなのかもしれないですね。こども園の食卓でソーシャルディスタンスを保つためには

知恵を絞り、机と机の間にもう一つ小さな机を置き、そこに花を飾ることにしました。そうすると子どもと子どもの距離も離れるし、食卓の雰囲気も良くなるという感じになりました。新型コロナウイルスへの対応として園環境を見直す際に、豊かさという視点を失わずに工夫すると危機感に押しつぶされた感じにならないと感じました。

今日はベルガーさんからたくさんお話をお聞きでき、もつと語りあいたいという思いでいっぱいです。それぞれの場で考え続けられたいと思います。ありがとうございます。

(2020年7月19日 Zoomにて開催)

注
ドイツでは6歳で1年生になる子どもが多いが、5歳で入学する子ども8歳で入学する子どもという、一人ひとりの能力に合わせた学びとなっている。